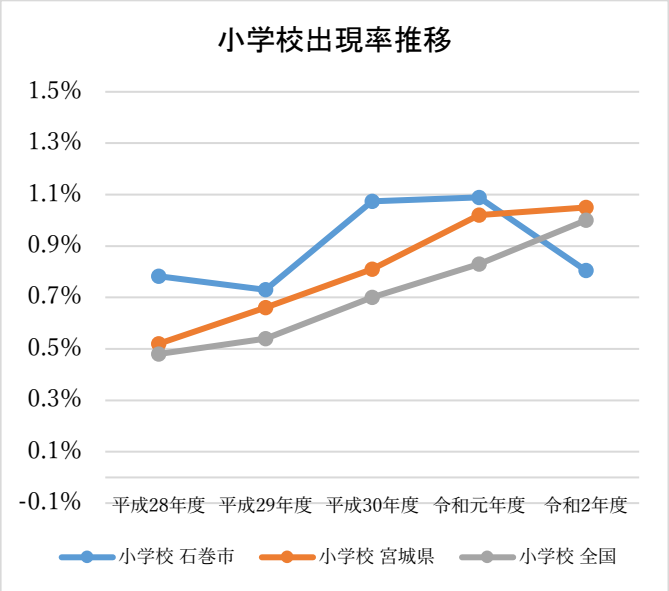
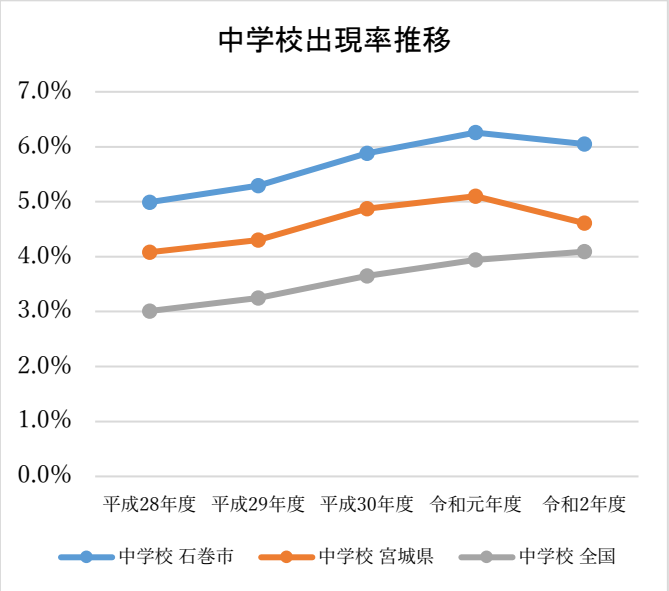
Ⅱ　不登校児童生徒の心のケアについて　【資料２】

１　石巻市の不登校の状況

（１）過去５年間の状況





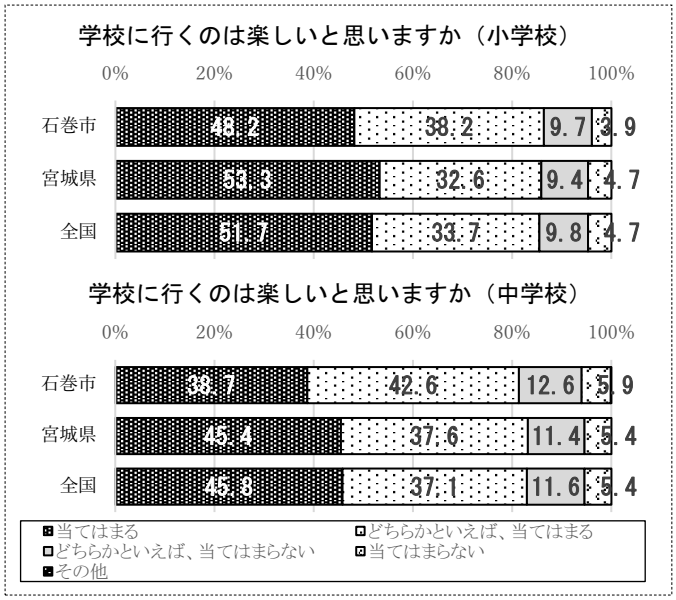
	小学校				中学校			
	児童数	出現率	全国	宮城県	生徒数	出現率	全国	宮城県
H28	6,769	0.78%	0.48%	0.52%	3,927	4.99%	3.01%	4.08%
H29	6,577	0.73%	0.54%	0.66%	3,761	5.29%	3.25	4.30%
H30	6,518	1.07%	0.70%	0.81%	3,517	5.89%	3.65%	4.87%
R1	6,426	1.09%	0.83%	1.02%	3,406	6.25%	3.94%	5.10%
R2	6,318	0.81%	1.00%	1.05%	3,323	6.05%	4.09%	4.61%

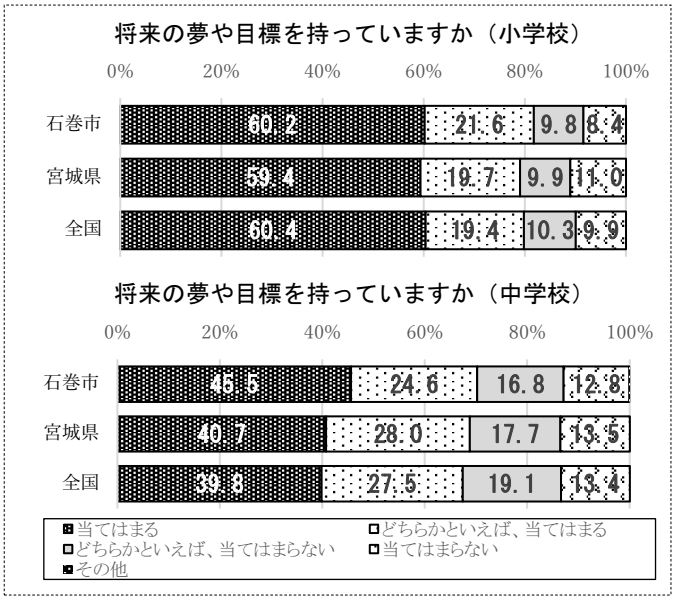
（２）中学校の不登校出現率（学区内の小学校数別）

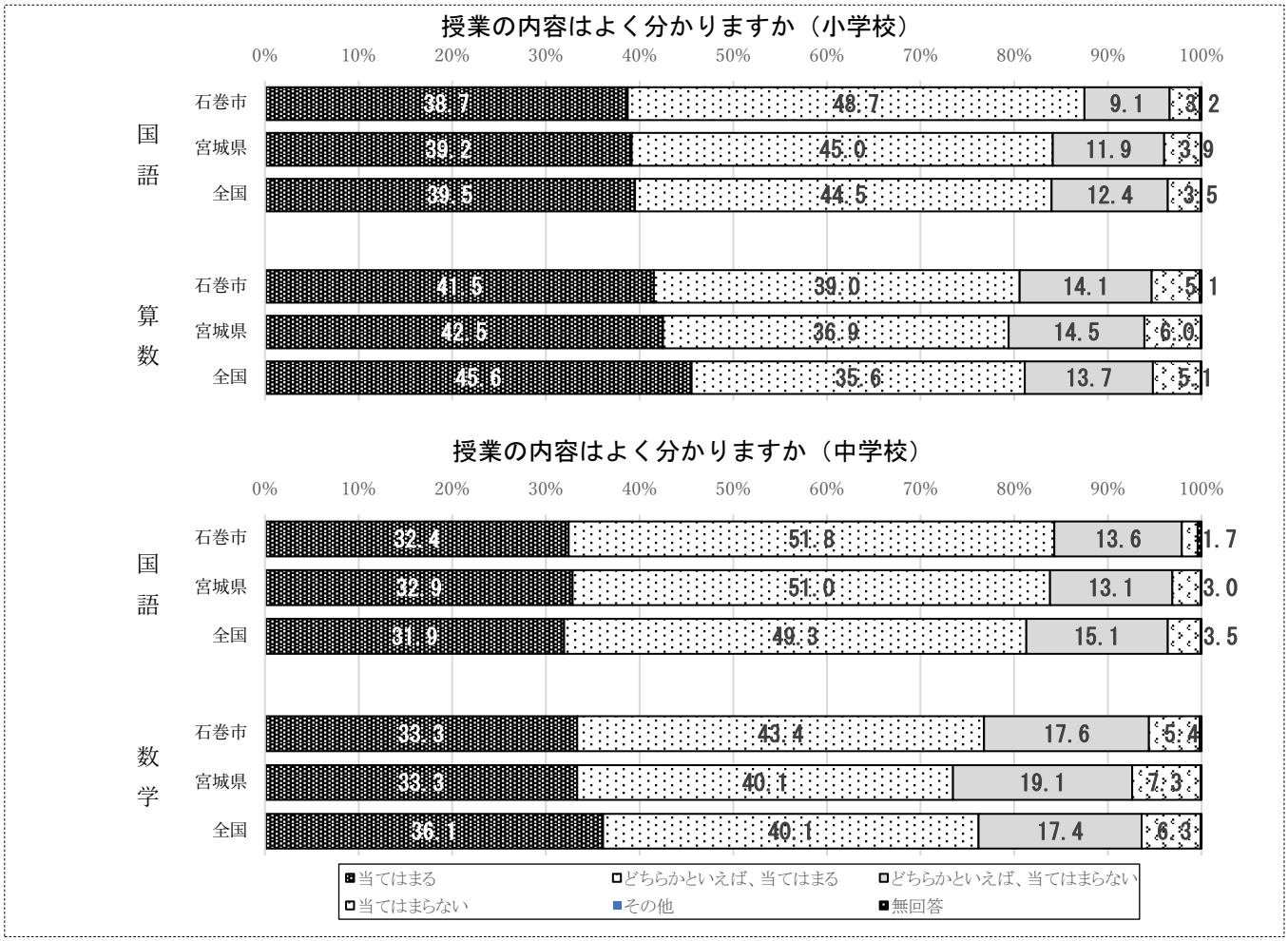
小学校数	1校	2校	3校
出現率	6.5%	6.1%	8.8%

・令和２年度の出現率は、小・中ともに減少している。
・小学校の出現率は県、全国よりも低いが、中学校では県、全国よりも依然高いままである。
・小学校３校から中学校１校へ進学するケースは、不登校率が高い。

（３）令和４年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果から







・「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒は県や全国を下回っている。
・将来の夢や目標を持っている中学生は県や全国を上回っている。
・算数・数学の授業内容が「分かる」と答える児童生徒は県や全国よりも低い。
（「どちらかといえば、分かる」まで含めると県や全国を上回る）

【分析】

（１）Ｒ２の出現率の傾向

・Ｒ２は、欠席が３０日を上回る児童生徒が減少した。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による休校措置等により授業日数が１４日減ったことを考慮すると、明らかな減少とは言い切れない。

・中学校１，２年に増加傾向が見られた。

・不登校のきっかけとして、小学校では「無気力」や「親子の関わり方」、中学校では「友人関係をめぐる問題」や「無気力」「学業の不振」が多い傾向。

（２）「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒が少ない

・「授業が分かる」と回答する児童生徒が全国・県より少ない。

→授業に対して前向きになりづらい。

・小学校３校から入学する中学校の出現率が高い。

→新しい人間関係づくりを苦手とする傾向が見られる。

・「どちらかといえば、楽しいと思う」まで含めると、県や全国の差はほとんどない。

「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童生徒は県や全国を上回る。

→これまでに取り組んできた互いの良さを認め合う取組等の成果は表れている。

２　不登校への取組

（１）組織体制

＜学校＞

１　不登校を生まない予防的取組

・魅力ある学校づくり
・学習指導・生徒指導の充実
・個人記録の蓄積と引継ぎ
・情報交換
・チャンス相談の実施
・小学校・中学校の連携

２　不登校児童生徒への対応

・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関との連携
・家庭訪問や居場所づくり
・ＩＣＴの活用

３　保護者との連携

・面談実施
・学習指導に関する丁寧な説明
・支援機関等に関する情報提供

＜教育委員会＞

１　不登校児童生徒対応会議事業

・実態把握
・研修会の実施
・学校・家庭への啓発、支援

＜子どものサポートハウス＞

２　心のサポート事業

・心のサポーターによる家庭訪問支援
・別室登校支援
・専門医等、関係機関との連携

３　適応サポート事業

・適応指導教室（けやき教室）
・学習支援
・体験活動による社会性の育成
・教育相談

４　学びサポート事業

・学び支援コーディネーター
・学び相談員

ケース会議

＜関係機関＞

１　宮城県

・総合教育センター
・東部教育事務所
・東部児童相談所

２　石巻市

・市民相談センター

３　民間

・フリースクール

（２）現在の取組

・全国学力・学習状況調査の結果から、学習上のつまずきの確実な解消。
・良好な人間関係を基盤とした学級づくり、学習集団づくりをしながら、「協同学習」を柱とした授業の展開。
・学習や学校生活の不安等の解消に家庭との連携。
・小中連携を生かした異年齢集団や校種間をまたいだ人間関係構築の体験の充実。

↓

○「学力向上プラン」の推進
○「学校わくわくプラン事業」の推進（マルチレベルアプローチ）
○保護者との教育相談の活用
○「小中連携」の推進

（３）今後強化する取組

○子どものサポートハウスとけやき教室を統合し、教育支援センターを新設（現在検討中）
・子どもの社会的自立に向けた３機能（学習支援機能、訪問支援機能、相談支援機能）の充実を図る。
・不登校や子どもの発達・学びに関わる対応の一元化を図る。

○フリースクール等外部機関との連携強化
・「不登校支援関係機関懇談会」を開設し、不登校児童生徒への支援を担う各関係機関との連携強化を図る。

○不登校を生まない体制づくりの一環としての学力向上対策
・学力向上プラン（新設）による、つまずき解消の取組強化を図る。
・保護者との教育相談による、学校と家庭の連携強化を図る。